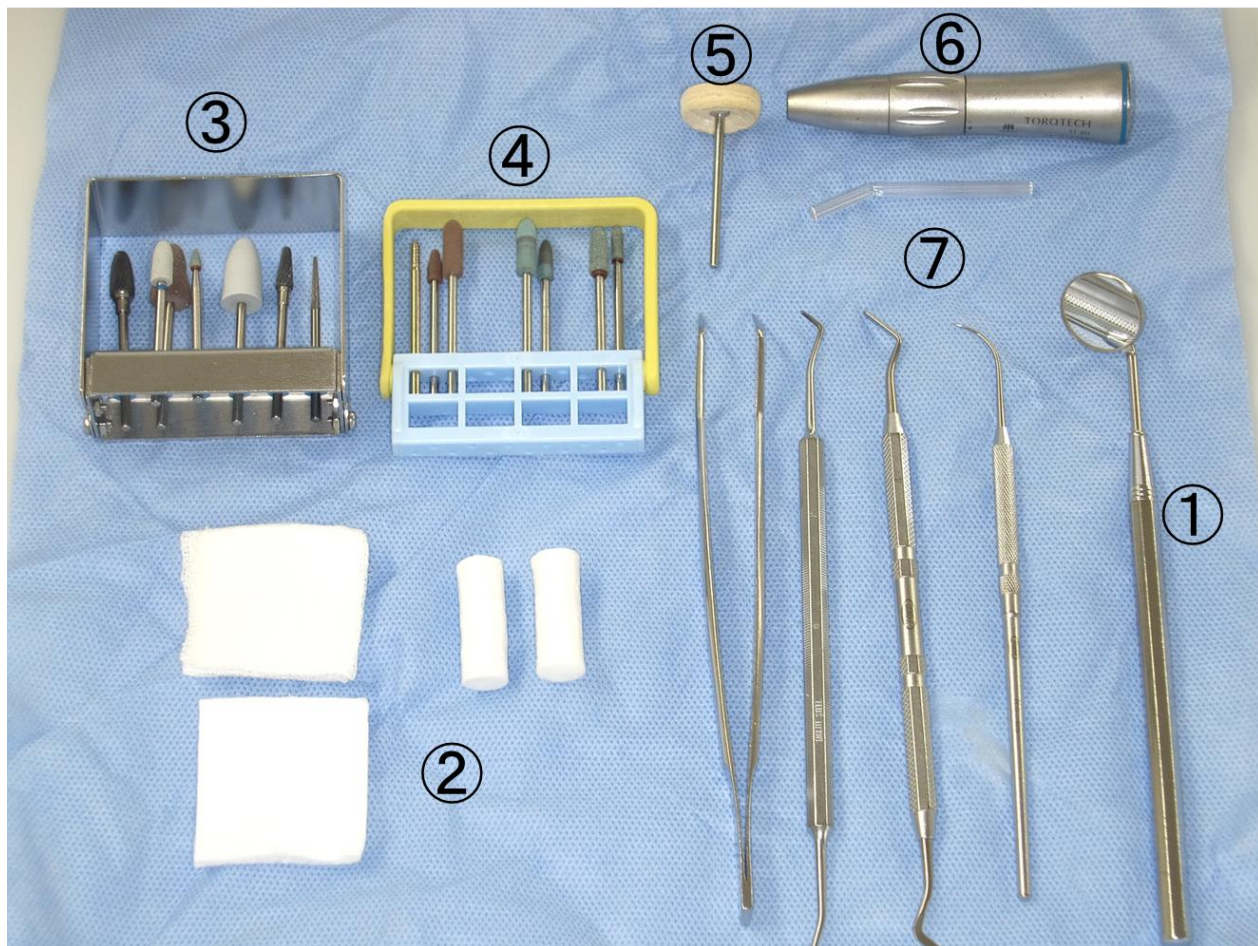


# 診療マニュアル（義歯調整）

ユニットトレイの上に準備するもの（清潔域）



- ①基本セット（ピンセット、探針、雑用エキスカ、練成充填器、デンタルミラー）
- ②綿（ロールワッテ）セット
- ③レジン系調整用セット（ストレートハンドピース用）
- ④メタル調整用セット（ストレートハンドピース用）
- ⑤チャモイスホイール（レジン用）
- ⑥ストレートハンドピース
- ⑦ディスプレイザル 3way シリンジ

モービルキャビネットの上に準備するもの（清潔域）



咬合接触検査材

- ①咬合紙ホルダー＋咬合紙（短冊状、馬蹄状のいずれでも可）

適合試験材

- ②デンフィット S®
- ③デンスポット®（スポンジ、黒い紙練板）
- ④フィットチェッカー®（セメントスパチュラ、練板紙、鉛筆）

研磨材

ルージュ（レジンポリ）

クラスプ調整（部分床義歯の場合）

プライヤー（ヤング、河邊）



口腔外バキューム

事前にカルテを確認し、これまでの経過や処置内容を確認する。

- ① 必要な材料・器具を用意し、指導医に本日の治療内容を報告する。
- ② 患者様の来院を確認できたら、ユニットのメインスイッチをいれて器具準備を行う。
- ③ 患者様を誘導できる環境にあることを確認する。
- ④ 待合室で患者様をフルネームで確認し、挨拶後ユニットまで誘導する。
- ⑤ エプロンを取り付けた後、マスク、ゴーグルを着用し、手洗い後、グローブを装着する。
- ⑥ 問診：前回の治療から痛いところがあったか、食事ができていたか、何か気になることがなかったかどうか等を聴取し、義歯非装着時、義歯装着時に分けて口腔内を視診し、その状況を確認後、結果を指導医に報告する。
- ⑦ 義歯の調整：義歯調整の手順について逐次報告・確認する。
  1. **義歯着脱時の調整**：着脱時の疼痛の有無、小帯や筋の可動域と床縁形態との調和を確認する。
  2. **手指圧下での義歯床粘膜面の調整**：適合試験材を粘膜面全体に盛り、辺縁の長さや適合状態を手指圧下で検査する。過長部分や過圧点がある場合には義歯床粘膜面を一層削除して接触を弱める。
  3. **ロールワッテ介在下での義歯床粘膜面の調整**：ロールワッテを介在させた咬合圧下で、疼痛の有無を検査し、疼痛がある場合には義歯床粘膜面を一層削除して接触を弱める。
  4. **咬頭嵌合位での咬合調整**：臼歯部歯列全体が咬合接触するように咬合紙で接触状況の検査をしながら咬合調整を行う。この調整過程での粘膜面の疼痛は、咬合の不調和に起因したものであるため、義歯床粘膜面の調整は原則として行わない。
  5. **ロールワッテ介在下で疑似咀嚼運動をさせた際の義歯床粘膜面の調整**：疑似的な咀嚼運動を行わせて疼痛の有無を検査する。
  6. **偏心運動時の咬合調整**：側方運動時の疼痛は、咬合の不調和に起因しているため咬合調整を行う。
  7. **最終確認**：咬合状態や義歯床粘膜面の適合性に問題がないことを確認する。
  8. **患者指導**：義歯の着脱方法、清掃方法、就寝時の取り扱い方法などについて指導を行う。
- ⑧ 治療内容に関して、指導医の確認を受ける。
- ⑨ 次回の治療内容を伝える。
- ⑩ 使用器具は感染・非感染に区別する。
- ⑪ ⑩で使用したグローブは捨て、新しいグローブを装着後、ユニット清拭を行う。
- ⑫ カルテ2号用紙に必要事項を記載し、指導医の確認を受ける。
- ⑬ 指導医からフィードバックを受け、次回の治療内容の確認を行う。
- ⑭ F領域の水準に検印を受ける。
- ⑮ 使用器具を消毒室に片付ける。